

【ポスター発表】

法律事務所における包括的ソーシャルワークの可能性

ー弁護士アンケート調査からー

別府大学短期大学部 伊藤佳代子 (会員番号 005334)

キーワード：包括的ソーシャルワーク実践、弁護士、連携

1. 研究目的

現代における個人の社会生活は複雑多様化し、貧困、DV、虐待、社会的孤立等の問題が見えにくくなっている。こうした生活支援のニーズが把握されにくい現状があるにもかかわらずわが国におけるソーシャルワークは、一部の福祉機関及び福祉施設において問題が顕在化した利用者を対象とした無料のサービスが一般化している。近年、社会福祉士が独立開業し、利用者のあらゆる生活課題に対応することを期待されているものの、介護保険及び成年後見制度を中心とした活動に止まり、包括的ソーシャルワーク実践が実現できていない現状がある。

本研究では独立開業が一般的な弁護士が勤務する法律事務所における生活支援ニーズを調査し、弁護士と社会福祉士が連携する包括的ソーシャルワークの実践について可能性を探ることを目的とする。

なお、本研究は「弁護士との連携による社会福祉士の包括的ソーシャルワーク実践に関する実証的研究」(平成27～29年度)をテーマに日本学術振興会科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究にて行った調査の一部を整理したものである。

2. 研究の視点および方法

弁護士は社会福祉士と同じ「人権擁護」、「社会正義」を共通基盤とし、破産、離婚、相続、刑事事件等様々な事件の法律問題を解決している。このような法律問題は利用者が抱える生活問題の一つの側面である。弁護士業務は事件の法的側面に焦点化した問題解決が主体であり、破産や離婚に伴う生活全般への支援を行うことが困難であると考えられる。

今回、日本弁護士連合会の「ひまわりサーチ」に登録している全国の弁護士の中から地域の弁護士数を勘案して無作為で抽出した1000名を対象に郵送にて、生活支援ニーズ及び社会福祉士との連携についてアンケート調査を実施した。

調査期間：平成28年10月から11月

調査項目：①受任事件の相談内容、②生活問題を抱えた事例の有無、③生活問題への対応の有無、④法律事務所における生活支援の必要性の有無、⑤社会福祉士の認知及び協働について

3. 倫理的配慮

調査にあたってアンケート調査票に以下の点について記載し、研究目的及び調査対象者の抽出方法を文書にて説明した。

- ① 個人を特定した回答結果を公表しない
- ② 匿名性に配慮して集計を行い、調査結果を研究以外の目的で使用しない

また、調査内容については、対象者の名誉やプライバシーに配慮し、調査への疑義がある場合は、報告者の連絡先を明記して問い合わせを依頼した。その他、本研究においては日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守している。

4. 研究結果

アンケートを発送した1000件のうち253件の回答が寄せられ、回収率は25.3%であった。調査結果については、以下のとおりである。

- ① 受任事件の相談内容：離婚等夫婦の問題が87.4%と最も多く、次いで相続・遺産等の問題が75.9%、交通事故62.1%、借金・破産が52.2%となっている。
- ② 生活問題を抱えた事例の有無:有とした者が82.2%であった。
- ③ 生活問題への対応の有無:対応している者は43.1%で、53.4%は対応していない。
- ④ 法律事務所における生活支援の必要性の有無:必要を感じている者は46.2%で49.4%が必要性を感じていない。回答した弁護士のうち女性は53.7%が必要性を感じ、男性の44.4%を上回っている。また、地域別では近畿地方に在住する弁護士は62.2%が必要性を認識しているが、九州においては64.0%が必要性を感じていない。
- ⑤ 社会福祉の認知及び協働について：社会福祉士を知っている者が58.1%でよく知らないと回答した者の40.3%を上回っている。また、これまで社会福祉士と連携したケースがないとの回答は62.8%であった。

5. 考察

アンケート調査の回収率が予想を上回り、自由記述欄にも多くの弁護士から意見が寄せられた。また、事案の提供やインタビュー調査への協力についての連絡も多くいただいた。これは近年の法曹人口の増加から、弁護士も顧客獲得に関心を持つようになり、法律事務所のサービス拡大に関心を寄せていることが背景にあるのではないだろうか。

今回のアンケート調査結果により生活支援ニーズは明らかで、法律事務所における生活支援は、包括的ソーシャルワーク実践を本務とする社会福祉士の新たな活動領域として期待されていると考えられる。

現在、生活支援を実践している弁護士にインタビュー調査を実施しており、アンケート集計結果に関するコメントと併せて分析を行うことで、社会福祉士と弁護士の連携による包括的な生活支援の具体的方法を検討していきたい。